

Freude

vol. 14 -22 2018.8.1.wed

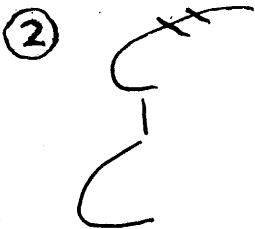
モーツァルト通になろう!

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

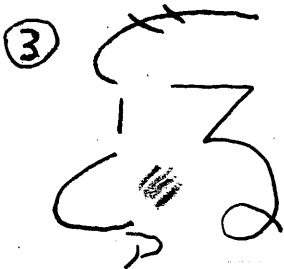
石川しげむ先生のモーツァルトの肖像画の描き方



① 「も」の文字を書きます。
つぎに長音「ー」をタテに書きます。



② 「つ」の字を反転させた
「C」を長音の下に書きます。



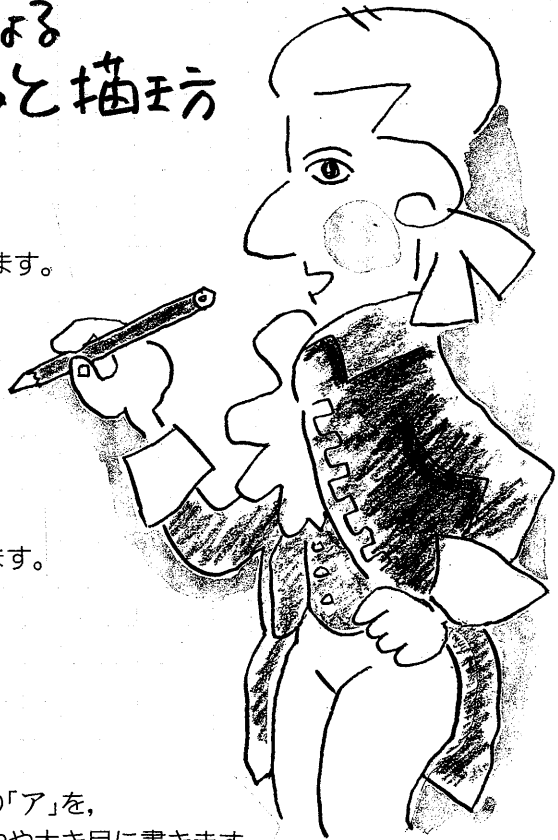
③ 「C」の下に片カナの「ア」を、
「も」の下に「る」をやや大き目に書きます。



④ 「る」の下に「と」を書き、
これに目を足して完成です。

目は二重です

リボンを
足す



モーツァルトの肖像画の描き方

モーツァルト通になろう!

8/10 (水) 18:30 ~ 堺江岸PT

8/8 (水) 18:30 ~ 堺江岸PT

8/15 大塚

8/19 (日) 13:15 ~ 小田原駅
(JR尾崎)

8/22 (水) 18:30 ~ 天神橋
(四五番前夕陽ビル)

モーツァルト語録

死後ほどなくして出版されたモーツァルトの伝記では、直接彼を知っていた人々が、多くの逸話を語っている。また、モーツァルトは筆まめでもあった。数多く残された書簡で、人生や芸術、音楽について、さまざまに語ってもいる。そんな中から、モーツァルトの人物像がうかがえる、いくつかの言葉を拾ってみると――。

「ぼくのこと、好き？」

モーツァルトの子供の頃の口癖。人なつこい寂しがり屋の性格が表れている。

父レーオポルトのザルツブルク宮廷楽団での同僚で、一家と親しかったシャハトナーは、一日に何度もこうきかれ、時には冗談で「好きじゃないよ」と答えた。すると、幼いモーツァルトは、たちまち涙ぐんだという。

「ヴァーゲンザイルさんをお呼びください。 あの人は音楽のわかる人ですから」

初めてシェーンブルン宮殿に伺候した6歳の時、皇帝一家の御前でクラヴィーアを弾くことになったモーツァルトのリクエスト。ゲオルグ・ヴァーゲンザイルは、当時宮廷作曲家兼皇帝付きクラヴィーア奏者で、幼いモーツァルトは、彼の作品でクラヴィーア演奏を学んだ。

やってきたヴァーゲンザイルに「あなたの協奏曲を1曲弾きますから、ぼくのために譜めくりをしてくれなくてはなりません」と、モーツァルトは依頼する。こうしたリクエストは、神童の尊敬表現なのである。

「ぼくは、よく仕上がった服のように、 アリアが歌い手にぴったりと合うのが好き ですからね」

1778年2月28日付けの、父宛ての書簡から。当時モーツァルトは、マンハイムに滞在中であった。テノール歌手アントン・ラーフのために書いたコンサート・アリア《もし私の唇が信じられないなら》K295を、ラーフからの依頼で手直したことについての報告。すでに老齢に入っていたラーフには、長大な曲あるいは高音での難しい楽句を歌うのが困難であった。楽譜を見たラーフの要望に従い、モーツァルトは、この曲の最後の繰り返し部分を省き、短くしたようである。

「すぐれた才能の持ち主は、いつも同じ 土地にいたらだめになってしまいます」

1778年、パリから父レーオポルトに宛てた書簡の一節。生涯のおよそ3分の1近くを、旅に明け暮れて過ごしたモーツァルトならではの、重みを持つ言葉。

「(ウィーンは)ぼくの仕事にとっては、 この世で最上の場所です」


1781年6月、君主であるザルツブルク大司教コロレードと決裂したモーツァルトは、ウィーン定住を決意する。上記の言葉を父に送ったのは4月で、この頃からすでに不満を胸中にあふれさせていたのである。「クラヴィーアの国」ウィーンでは、弟子を2人もとれば、ザルツブルクよりもずっと良い生活ができる、とも述べている。

「喝采を得るためには(中略)わかりやすい ものを書かなければなりません」

1782年12月に、父に宛てた書簡の一節。「馬車の御者でも歌える」わかりやすいものを書くか、もしくは、まったくわからないゆえに気に入られるものを書かなくてはならない、と述べている。

「もしも人々が私の心の中を見ることが できたら、私は大変赤面しなければなら なかったでしょう」

1790年9月30日に、フランクフルトから妻コンスタンツェに宛てた手紙の一節。この旅行では、オペラ《ドン・ジョヴァンニ》上演の計画が頓挫するなど、期待に添わないことが多かった。「すべては私に対して冷淡です。氷のように冷たいのです」と、モーツァルトは嘆いている。

後藤真由子監修
「わかりやすい
もの」
モーツァルト」
(成美堂出版)
より転載した


合巻図書社にモーツァルトの本がいろいろありそうです。貸し出しのものを身にまとうね